啐啄 そったく

平成２８年８月３０日発行
http://www.osakasayama.ed.jp
gakkou@city.osakasayama.osaka.jp

大阪狭山市教育委員会 学校教育グループ １１８号

「授業力向上研修」から授業を考えよう！創ろう！高めよう！

『子どもが主体的･協働的に活動する授業づくり』をめざし、校種･教科を越えて積極的に“授業”を公開する先生。「子どもたちの求める授業」をつくっていこうと、課題意識を持って授業を参観し討議に参加する先生たち。学識経験者等の先生たちも交えながら大阪狭山市全体で進めている「授業力向上研修」を今年度は１３回実施します。

６月２２日には、本年度第１回目として第三中学校 松川 泰拡先生が、３年「短距離走」の授業を公開し“意欲と主体性を高める授業”を追究しました。次に７月１１日に実施された第２回目の概要を紹介します。

授業の様子 南中学校 本山紗矢香先生２年 英語科「英語で自己表現しよう」――「S･V･O(人)･O(もの)」の語順理解とその表現活動を中心にバランスよく４技能を伸長させることと、学校としての課題「リスニング力」の向上を目ざし“オーラル”を大切にした授業が、以下のように進められました。

①簡単な Q&A の後、Please show me ～．を基に、主語をＩに、動詞を既習の show,give,write,teach,buy, sing,send に広げ、助動詞 will も入れ、S･V･O(人)･O(もの)の様々な文を生徒と先生でつくっていきます。そして、O(人)･O(もの)の語順に注目させ意識付けていきます。

「間違ったら恥ずかしい。」これを払拭させる配慮が安心感を与えています。

②身近な場面･･･「学校からの帰り道で」などに対応する文をS･V･O･Oを基本に考え、表現していきます。

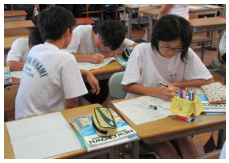
③ My birthday is October. で始まるまとまった“１４の英文”をリスニングし、誕生日にしてもらった内容・人の誕生日にしてあげた内容・してあげようと思っている内容を、皆で確認し合いS･V･O･Oの理解と定着を図っていきます。

④教科書本文のリスニングで聴き取れた“言葉”を出し合った後、みんなで本文の内容を確かめていきます。文頭文末の抑揚などに注意して、何度も読み進めます。

⑤“様々な動作を表すイラスト”を活用しS･V･O･Oの文章を作り、さらに言葉を置き換えて表現を広げていきます。

⑥基本文型を確認した後、設定された４場面に対して自由に書いていきました。

“身近な場面”の提示で興味･関心･意欲を高め、各場面毎に重点技能を設けてバランスよく４技能を育てる。場面を切り換えながら、S･V･O･Oの文に繰り返し触れさせ、積み上げながら習熟させていく。･･そんな密度の濃い５０分でした。

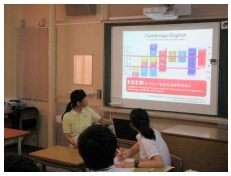


鉛筆が進みにくい友だちにそっとヒント。全員で学習を進めていきます。

交流会で 意見交流会の中で、関西大学 竹内 理 教授から助言をもらいました。

■現行は単元目標を「SVOO の文を理解し使う」のように書かれていますが、新学習指導要領では「～を学んで～が出来るようになる」という CAN-DO リストに基づく書き方に変わっていきます。■本時のようなオーラルを大切にした授業では、殊に「整理する･まとめる」過程を大切にしたい。例）「語順は？人に説明できるように考えてみて」と生徒に投げ掛け「整理させる」過程が必要。整理後は「誰が･する･誰に･何を」を日本語で繰り返し“定着”させる。

■“場面を設定”することで、英語を並べるだけの学習を避けることができ、どんな時に使えばよいのかが分かってきます。場面を切り替える度に、SVOO の学習が積み上げられ定着が図られます。



校種を越えて成果や課題を共有します。

■リスニングにおいてはメモをとらせますが、学力に応じた配慮（選択肢を設ける。空欄を埋めさせ完成させる。･･）が学習意欲を促します。■英語力を付けるには「リスニング」だけなく、聴いたことをもとに「話させる」ことが必要です。メモをもとに、個人で･ペアで･グループで英文を「再生し話す」過程を設けるなどの工夫をすると「作文力」も付いてきます。

夏季研修会で培う意欲と実践力

「教師としての情熱･実践力･子どもを見つめる視点･人権意識…」このような多様なニーズに対応した研修会が数多く開催されました。各会場には、参加者の熱心な姿がありました。その一部を紹介します

学校づくり応援事業 （於）南中学校 7/２８

「自尊感情を育む学校園づくり」

～子どもたちの笑顔のために～

堺市立大仙西小学校 中山 均 校長

■今の子どもたちにつけたい力は…

◇「人間関係づくり」の力
◇コミュニケーション力 ◇「自尊感情」
◇違いを認め合える力 ◇想像力･共感力
◇成功体験･失敗体験（再チャレンジ）
集団活動での成就感 ◇たくましさ･したたかさ

■子どもを元気にするビタミンは「自尊感情」「コミュニケーション力」「言葉がけ」です。世界に一つだけの特別な存在である自分を大切にすること。コミュニケーションはドッジボールではなくキャッチボール。話す力に加えて「聞く」「聴く」「訊く」力の育成を大切に。「人間は自分の好きな人、しかも尊敬する人からのみ文化･伝統を受け継ぐことができる…」コンラート･ローレンツ博士

■問われるチーム力。全教職員の力を総動員して、みんなでアンテナを張る。子どもの実態とめざすべき子どもの像の共通認識。

■「自尊感情」を大切にした「ユニバーサルデザイン」のクラスづくりを。学習活動のさまざまな場でのソーシャルスキル･トレーニングと「中間層の子どもたち」が学級づくりの明暗を分ける。

‥‥この後の分科会では「心を育てる部会」「支援教育部会」「保育･授業部会」「集団づくり部会」「保護者とともに部会」の５つに分かれて、熱心に議論をされていました。

中学校区元気アップ事業（於）東幼稚園　7/29

「あーよかったな　先生になって」

～教師のやり甲斐と子どもたちの笑顔～

教育サポーター　仲島　正教さん

■「授業づくり・学級づくりは、子ども理解に始まり子ども理解に終わる」「子どものつまずきを取るのではなく、つまずきを乗り越える力をつけること」「自尊感情は周りの声で育つ」「心の銀行に優しさや感動の貯金を」「何と言っても授業が一番」「学級通信のすすめ」「一番厳しい立場の子が大切にされる学級を」「５分間家庭訪問のすすめ」「先生からのプレゼント“本気で喜怒哀楽”を」‥‥など胸に迫る言葉をたくさんいただきました。

H28 教職員研修　（於）池博物館　8/9

「障害者差別解消法について」

梅花女子大学　伊丹　昌一　教授

■子どもの行動を理解することは、子どもの気持ちを理解すること。「欲求を満たすものがほしい」「ここにいたくない」「私を見て！」「不安」「ひま（何もすることがない）」など、子どもの気持ちを受け止めて望ましい姿を大人が決めること。自己肯定感を高めることで２次的症状を予防すること。‥‥等々、有意義な助言をいただきました。

8/2～3　ふるさと さやま発見研修

大阪狭山市の小・中初任者、10 年経験者、他市町からの異動教諭を対象に「ふるさとさやま発見」を実施しました。

8/１０　タイムリー研修

教育長あいさつ

立田 慶裕先生「これからの学力」

大阪狭山市のすべての教職員が一堂に会する研修が今年も SAYAKA ホールで行われ、学校園の実践報告や講演会が行われました。

8/4　チームワーク一研修

各小･中学校からの企画メンバーによるワークショップで、初任者から 10 年経験者までの教職員のチームワークが強まりました。

8/２２　MIM-PM研修

文科省の指定事業のテーマとして取り組んでいるＭＩＭ について体験的に学びました。

7/２８　アンガーマネジメント研修

子どもへの指導の場面を想定したり、自分のこれまでの生活を振り返ったりしながら、怒りについて正しく理解し、コントロールする手法を学びました。